

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会 13:30～ くらしの植物苑 東屋

第103回 『江戸・東京の野菜』加藤陽子（荒川ふるさと文化館）

先生は荒川区を中心に、江戸と近郊農村、都市流通を野菜を切り口に古文書、浮世絵などから考察されておられます。

第104回 『江戸の菊』平野 恵（文京ふるさと歴史館）

先生は19世紀の日本の園芸文化を文書、浮世絵などからご研究されています。今回は江戸時代の菊の観賞の仕方や描かれた江戸菊、菊の栽培書などを紹介いただきます。



くらしの植物苑今週の見どころ 毎木曜日更新 <http://www.rekihaku.ac.jp>

今の見どころ

畑：ワタ、ヘチマ、シカクマメ、ハトムギ、あけぼの大豆、食用キク、アイ

苑内：シオン、フヨウ、ヒガンバナ、モリアザミ、ムラサキシキブなど

カヤの種子て？

カヤはイチイ科カヤ属の常緑高木で雌雄異株です。いまの時期、種子が緑色の仮種皮に包まれています。完熟しても緑色でそのまま落下します。仮種皮は繊維質で自然に割れてきます。種子からは油がとれます。種子は生では食べられませんが、炒って食べられます。似たものにイヌガヤがありますが、イヌガヤはイヌガヤ科イヌガヤ属です。葉の気孔帯の数や葉の先端が痛くないこと、葉枕などから区別できます。



フジバカマ (キク科ヒヨドリバナ属)

草地に生える多年草で、秋の七草の1つです。以前はかなり野生のものが見られましたが、今はほとんど見られません。葉は生乾きのときは桜餅の桜の葉と同じクマリンの香りがします。花は頭花で、すべて両性の筒状花が集まったものです。2裂して長く伸びた花柱が目立ちます。



シャクチリソバ (タデ科ソバ属)

ヒマラヤや中国に分布する多年草のソバです。日本では作物としては栽培されてはいません。



キンモクセイ (モクセイ科モクセイ属)

中国原産の常緑小高木で、庭によく植えられています。秋に、散形状に芳香をはなつ黄色の花を束生につけます。どこからか香りがして捜した方はおおいのではないのでしょうか。雌雄異株ですが、日本には雄株しかは入っていません。



サワフタギ (ハイノキ科ハイノキ属)

山地や谷地に多い湿ったところを好む落葉低木です。花は5月にご紹介しましたが白い花をつけます。今は藍色に熟した果実がみられます。別名をニシゴリといい、木灰を紫根染めの媒染剤としました。苑内にはムラサキもご覧いただけます。

